

# 平成24年(2012年)3月期第2四半期 決算説明会


2011年11月25日

JASDAQ:3423

 株式会社 **エスイー**

# 目次

- I. 平成24年3月期第2四半期業績  
および通期業績予想
- II. 平成24年3月期 事業報告
- III. SECグループの今後の戦略



**Ⅰ. 平成24年3月期第2四半期業績  
および 通期業績予想**

# ■ 損益計算書(連結)

(単位:百万円)

	平成23年3月期 第2四半期累計 実績	平成24年3月期 第2四半期累計 実績	前年同四半期比	
売上高	6,737	6,538	△199	△3.0%
営業利益	2	△169	△172	—
経常利益	10	△159	△170	—
四半期純利益	△29	△56	△26	—
一株当たり四半期純利益	△3円83銭	△7円31銭	△3円48銭	

## 売上高

- 市場規模の縮小を反映した厳しい受注競争を展開しており、加えて西日本を襲った台風12号および15号による工事中止の影響。
- エスイー朝日(株)及び(株)キョウエイで市場環境の好転に支えられ、順調な業績回復を見せたことでグループ業績に寄与。

## 営業利益

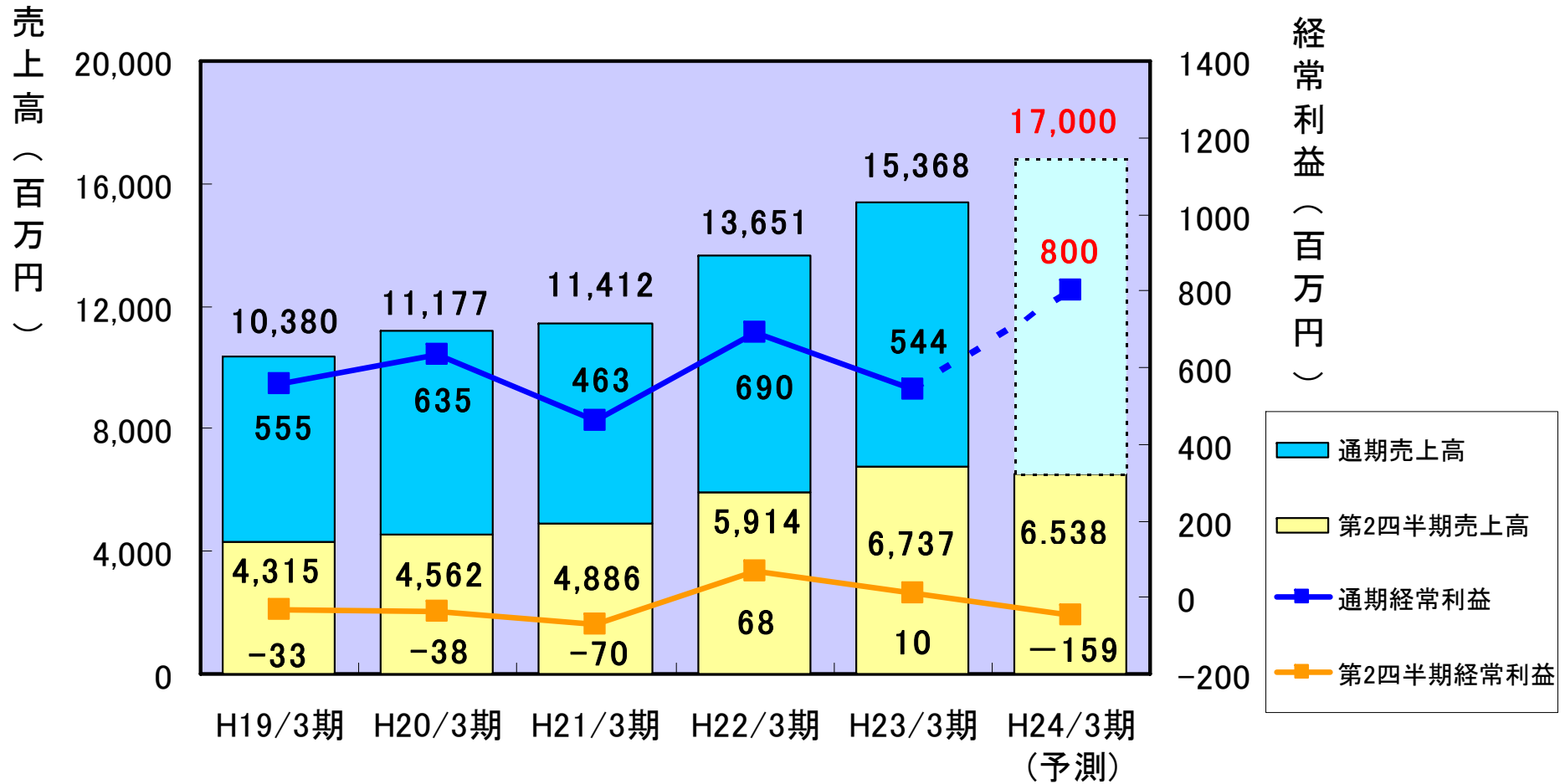
- 利益率の高い工場製品である『落橋防止装置』の販売が伸びず。

## サマリー情報(その他)に関する事項

- 韓国の持分法適用会社である株式会社コアエスイーは、第1四半期連結会計期間より、韓国の上場企業に韓国採択国際会計基準の採用が義務付けられたことを契機に、退職給付債務の計算を変更。
- 当該会計方針の変更は遡及適用され、前年四半期及び前連結会計年度については遡及適用後の四半期連結財務諸表、および連結財務諸表となっている。
- これによる影響額は軽微。

# ■ 売上・経常利益の推移

(連結) 売上高・経常利益の推移(平成19年3月期～平成24年3月期)



# ■セグメント別売上高

(単位:百万円)

区 分		平成23年3月期 第2四半期累計 実績		平成24年3月期 第2四半期累計 実績		前年同四半期比	
		売上高	構成比	売上高	構成比		
建設用資機材の 製造・販売	環境・防災分野	3,557	-	3,447	-	△109	△3.1%
	橋梁構造分野	1,173		733		△440	△37.5%
	その他	111		83		△28	△25.2%
	小計	4,842	71.9%	4,264	65.2%	△578	△12.0%
建築用資材の 製造・販売		1,714	25.4%	2,099	32.1%	385	22.5%
建設コンサルタント		158	2.4%	169	2.6%	11	7.1%
その他		21	0.3%	4	0.1%	△16	△78.6%
合 計		6,737	100.0%	6,538	100.0%	△199	△3.0%

- 売上高は百万円未満を端数処理(切捨て)しておりますので、内訳数値と合計値が一致しない場合があります。

# ■ 貸借対照表(連結)

(単位:百万円)

	平成23年3月期末		平成24年3月期 第2四半期末	
	前期末比較			
流動資産	12,406	11,008	△1,397	△11.3%
固定資産	5,440	5,468	28	0.5%
資産合計	17,846	16,477	△1,368	△7.7%
流動負債	7,405	6,217	△1,188	△16.0%
固定負債	4,238	4,256	17	0.4%
負債合計	11,644	10,473	△1,171	△10.1%
純資産合計	6,201	6,004	△197	△3.2%
負債・純資産合計	17,846	16,477	△1,368	△7.7%

(平成23年3月期末)

(平成24年3月期第2四半期末)

■ 自己資本比率

34.7%

36.4%

■ 一株当たり純資産

809円28銭

781円86銭

# CF計算書(連結)

(単位:百万円)

	平成23年3月期 第2四半期累計 実績	平成24年3月期 第2四半期累計 実績	前年同四半期比	
営業活動によるキャッシュ・フロー	633	317	△316	△49.9%
投資活動によるキャッシュ・フロー	△188	△72	115	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△206	△189	17	—
現金及び現金同等物に係る換算差額	△6	△7	△0	—
現金及び現金同等物 増減額	231	48	△183	△79.2%
現金及び現金同等物 期首残高	2,491	3,206	715	28.7%
現金及び現金同等物 四半期末残高	2,722	3,254	532	19.5%

## 主なCF項目の要因

- 営業活動によるCF: 主な資金の増加は、売上債権の減少額1,916百万円等、主な資金の減少は、たな卸資産の増加額370百万円、仕入債務の減少額1,076百万円、法人税等の支払額177百万円など
- 投資活動によるCF: 有形固定資産の取得による支出60百万円など
- 財務活動によるCF: 主な増加要因は、長期借入による収入768百万円、社債の発行による収入100百万円であり、主な減少要因は短期借入金の純減額76百万円、長期借入の返済による支出696百万円、社債の償還による支出127百万円、親会社による配当金の支払153百万円など



# ■平成24年3月期 業績予想(連結)

(単位:百万円)

	平成23年3月期 通期 実績	平成24年3月期 通期 予測	前年同期比	
売上高	15,368	17,000	1,631	10.6%
営業利益	529	765	235	44.5%
経常利益	544	800	255	46.9%
当期純利益	324	471	147	45.3%

◆ 平成24年3月期 期末配当金 **1株当たり 20円**(予定)

## ■ 一株当たり当期純利益・配当金及び配当性向の推移(連結)

	平成19.3期	平成20.3期	平成21.3期	平成22.3期	平成23.3期	平成24.3期 (予測)
一株当たり 当期純利益(円)	35.02	50.17	31.77	51.68	42.24	61.40
一株当たり 配当金(円)	※20	20	20	20	20	20
配当性向(%)	57.1%	39.9%	63.0%	38.7%	47.3%	32.6%

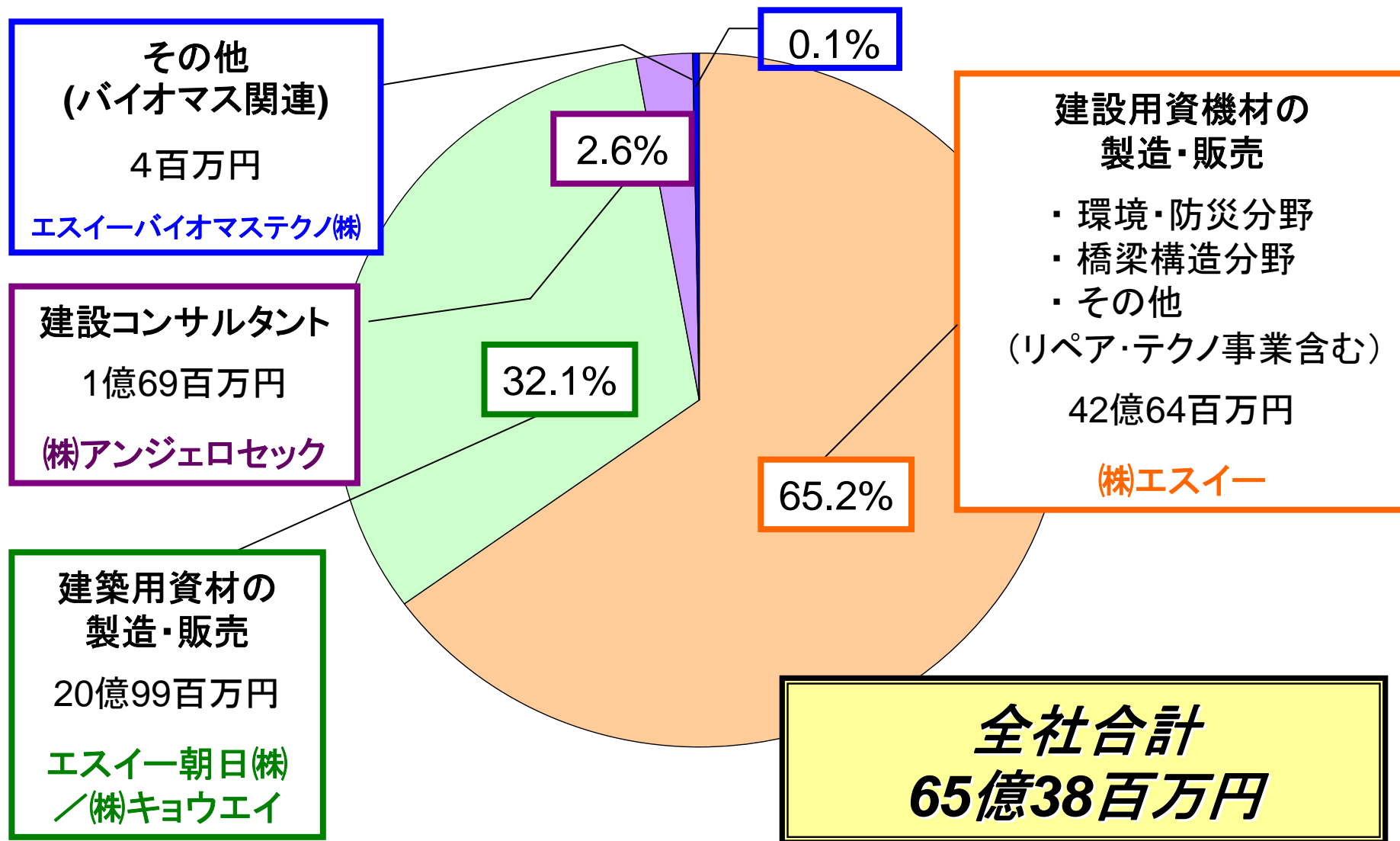
※ 平成19年3月期の配当金は記念配当5円を含む。



# **II. 平成24年3月期第2四半期 事業報告**

---

# ■ 平成24年3月期第2四半期 セグメント別 売上構成

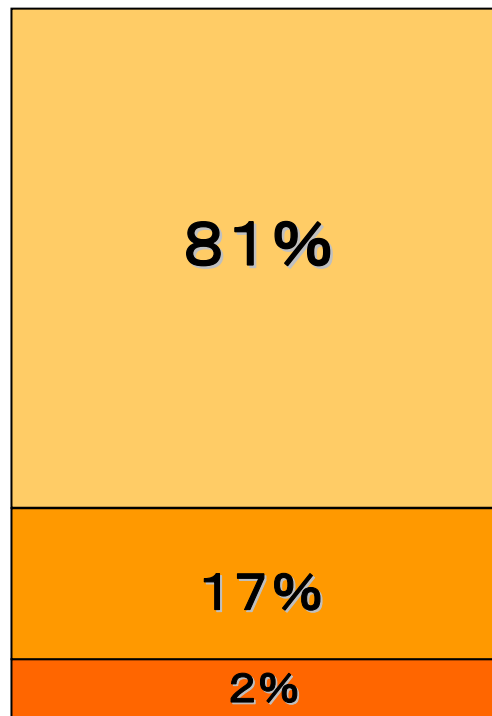


# ■ 建設用資機材の製造・販売

## (株) エスイー

売上高 : 42億64百万円  
営業損失 : 1億47百万円

<各分野の内訳>



### ◆環境・防災分野

売上高 34億47百万円

- グラウンドアンカー
- 落橋防止装置
- KIT受圧板 など

### ◆橋梁構造分野

売上高 7億33百万円

- 斜材ケーブル
- 橋梁用ケーブル
- 外ケーブル など

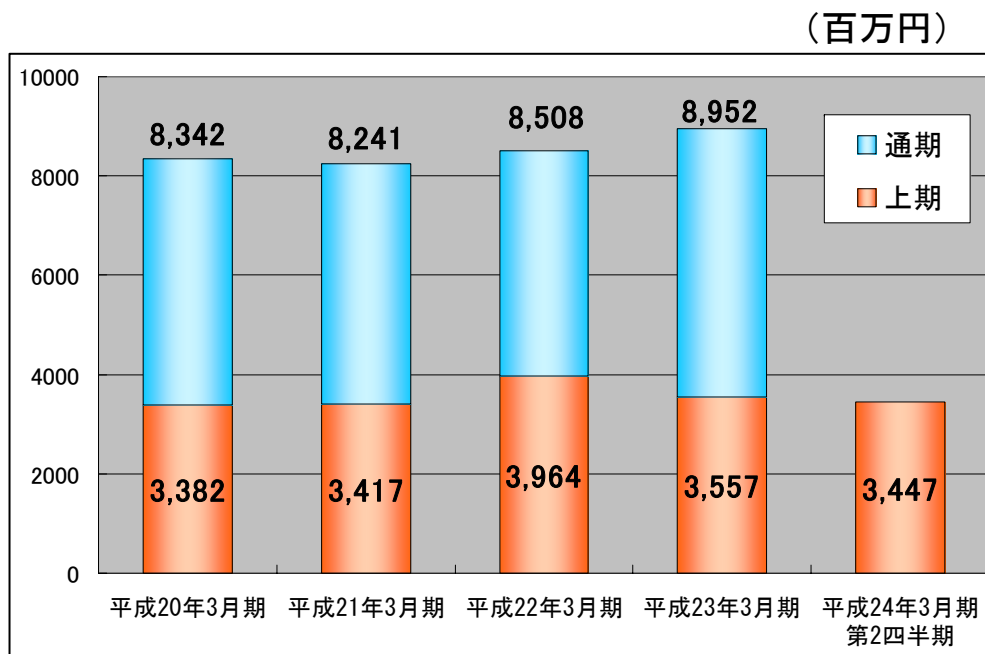
### ◆その他

売上高 83百万円

- 建設用機材のレンタル
- リペア・テクノ事業

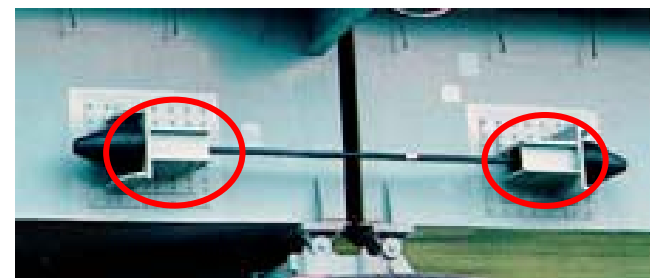
# ■ 環境・防災分野

## 【 環境・防災分野売上推移 】



- ◇主力製品である『アンカー』は前年同期比で18.2%増加、『落橋防止装置』は28.7%減少
- ◇港湾岸壁の補修に用いられる『控策』は前年同期に特需物件があったため、当第2四半期連結累計期間では58.4%の減少
- ◇落橋防止の関連製品である『ブラケット』は新製品として市場に受け入れられ、428.2%と高い伸び率

### 『ブラケット』とは

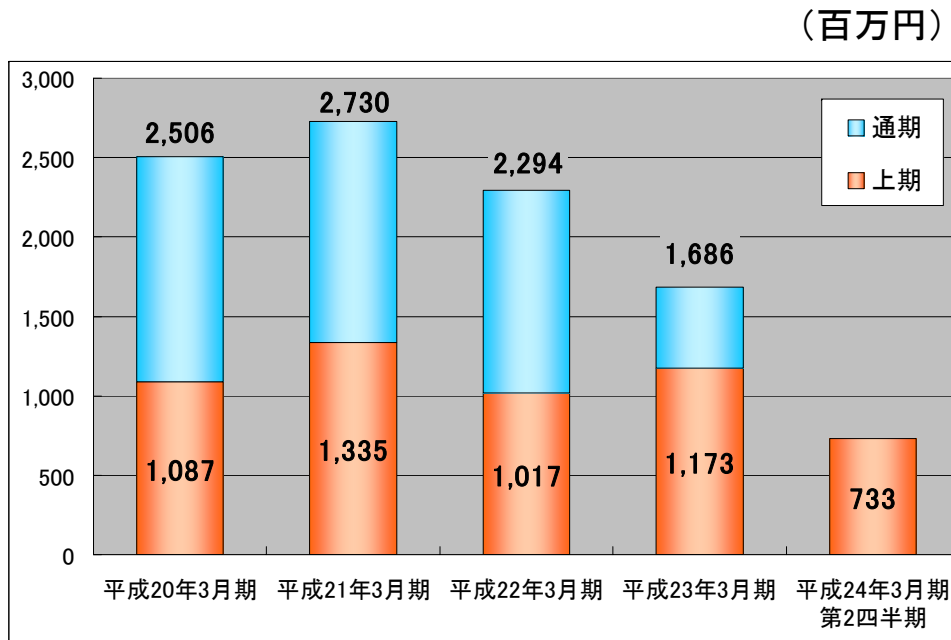


#### 【製品概要】

- ・『落橋防止装置』や『外ケーブル』等を既設構造物に定着させる際に使用する鋼材。
- ・さらに下部工側の取付けブラケット構造を首振り自在式構造にして、コンパクトかつ軽量化し、コスト縮減を実現した『ユニバーサルシステム』も。

# ■ 橋梁構造分野

## 【 橋梁構造分野売上推移 】



◇ 前年同期は韓国で大型の斜材物件(「ハミョン大橋」)があったため、『FUT-H型斜材ケーブル』の売上が大幅に減少

(注) 前期第1四半期より、新しい報告セグメントに変更したため、それ以前の各期についても変更した区分により金額を表示しております(建設コンサルタント事業を除く)。

### 由利橋(秋田県)



#### 【概要】

- ・ 由利橋架替事業 上部工工事
- ・ 2径間鋼斜張橋
- ・ 橋長: 190.5 m
- ・ 『斜材ケーブル』を始め『落橋防止装置』なども納入予定

# ■ その他 (リペア・テクノ事業含む)

## 【その他および補修・補強事業】

< レンタル >

◇ 施工に用いるジャッキ・ポンプ等の緊張用機材のレンタル  
売上が受注物件減少の影響から前年同期比54.2%の減少

< リペア・テクノ事業部 >

◇ 「補修・補強市場」への事業展開はようやく緒についた段階

### ① 初の元請受注！！

これまでの工事实績により、事業部設立からわずか1年で、福岡県にある複数橋梁の補修工事を一括で元請受注しました。今後の事業展開において大きな前進となりました。

### ② 九州高速道路の補修案件

山口県～鹿児島までNEXCO西日本九州支社の10管理事務所による橋梁の補修・保全工事を受注。110橋脚および橋台が対象。

長崎県大村市「大上戸川橋」



山口県下関市「小倉池橋」



# ■ 建築用資材の製造・販売

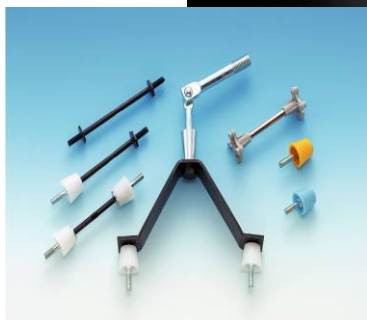
SEC 株式会社 エスイー

## エスイー朝日(株) / (株)キョウエイ

売上高 : 20億99百万円  
営業利益 : 1億23百万円

**増収増益**

- 市場の回復 : 指標となる「首都圏新設マンション着工数」が平成23年8月まで13ヶ月連続で増加
- 2社の経営効率化 :
  - ・ オペレーションの統合や顧客基盤の拡大などシナジーの発揮
  - ・ 合理化によるコスト削減
  - ・ 関東・東北を中心としたネットワーク強化



平成24年1月1日に合併予定  
新商号「**エスイーA&K株式会社**」



# ■ 建設コンサルタント

## (株) アンジェロセック

売上高 : 1億69百万円  
営業損失 : 1億04百万円

◇「コンゴ国キンシャサ市ポワ・ルー通り4車線化調査」の売上が第3四半期以降にずれ込んだことで、**売上高169百万円(前年同期比7.1%増)**、**営業損失104百万円(前年同期は94百万円の営業損失)**

- フランス語圏のアフリカ諸国におけるJICA、外務省によるODA案件に強み
- また、アフリカやアジアを中心とした、発展途上国での環境・エネルギー事業も積極的に展開



パキスタン  
『国道25号線改修計画施工監理』



チュニジア  
『水環境改善事業準備調査』



ブータン  
『サイクロン災害復興支援計画』

# ■ バイオマス関連

## エスイーバイオマステクノ(株)

売上高 : 4百万円  
営業損失 : 20百万円

### ●ベトナムを中心としたASEAN諸国での小型浄水装置 および海水淡水化装置の市場開拓

東日本大震災後  
国内の地方自治体や病院などにも営業展開

### ●食料残渣装置納入

食品工場への導入: FED1000 × 2台


### ●研究開発

- 新分野の研究開発における製品化への取組み
- 建設用資材への応用

- ・ 製品の改良開発
  - 製造コスト削減
  - 軽量化



<新型浄水装置>



### **III. SECグループの今後の戦略**

---

## 【平成24年3月期第2四半期 建設業界をとりまく市場環境】

- 公共事業費の削減
  - －公共事業費の10年連続削減。  
平成23年度の総額は実質5.1%減の5兆4799億円。
- 東日本大震災や台風12号・15号の影響による市場不安定化
  - －災害による工事中止が相次ぐ。  
被災地の復旧・復興財源確保のため、公共事業費の5%が執行留保になるなど。

徐々に  
回復の兆し

10/07 — 公共事業費5%執行留保を解除  
：総額3千億円が防災事業へ優先配分予定

11/10 — 復興需要の波及、第3次補正予算成立  
(総額 約12.1兆円：復興交付金1.56兆円、公共事業1.47兆円)

今期末に向けて災害等に対する予算執行状況や市場動向を注視

# ■ 今後の戦略

～中長期的な安定収益の確保と経営基盤の強化に向けて～

- 健全経営と成長戦略
- 新技術の開発と製品開発

	国内	海外
既存事業	・ 既存製品の用途拡大	・ ベトナムにおけるトータルエンジニアリング
新規事業	・ PPP／コンセッション事業(上下水道、橋梁分野)	
	・ 既設橋の補修・補強	・ 水処理関連事業

# ■ 健全経営と成長戦略

## 自己資本比率の向上

自己資本＝経済不安定の影響 小

健全な財務体制を維持

- －企業としての体力向上
- －信頼性の向上

バランス

## 事業多角化

公共事業に頼らない事業システムの構築

社会やニーズの変化に対応すべく  
新たな収益源となる事業の模索

## 【成長へのキーワード】

### ● 耐震性

S.E.E.E.工法の優位性

### ● エコロジー&エネルギー

エスイーバイオマステクノの技術開発

### ● 海外進出

ベトナムを中心としたASEAN諸国

## 課題：選択と集中

- ：国際化比率の向上
- ：投資、キャッシュフロー増加の検討
- ：開発費用の検討
- ：人員の再検討と整合性

**「ROI」を重視した経営戦略をとっていくことが重要**

# ■ 新技術の開発と製品開発

## ＜エスイーバイオマステクノ株式会社＞

### ● 光触媒関連の材料開発

- ・ 現在、大学と共同で研究開発中
- ・ エコハウス、その他建築物や構造物などに活用

### ● 超高強度コンクリートの開発・製品化

- ・ 建設用資材として環境防災分野製品（KIT受圧板など）への応用
- ・ リペア・テクノ分野への展開

### ● ベトナムにおける海水淡水化装置の製造・販売

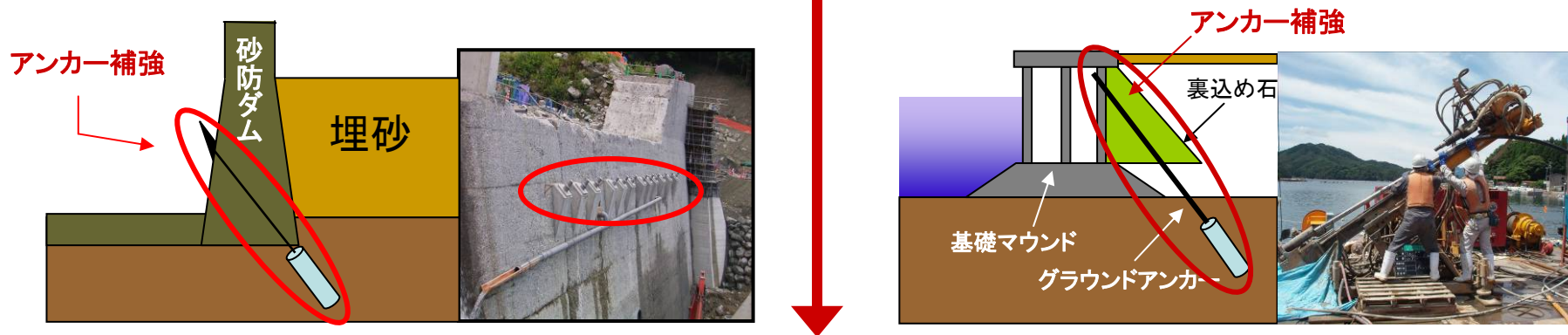
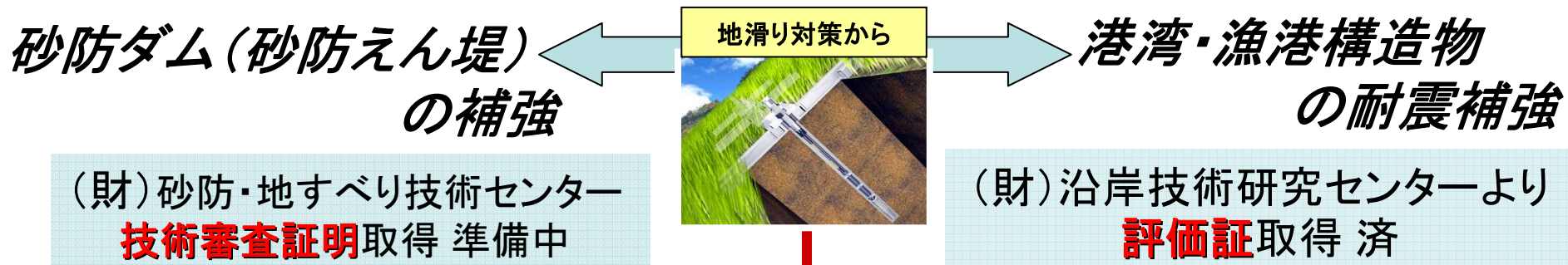
- ・ 海水淡水化装置の製造・販売をベトナムで現地化
  - ベトナムを拠点に周辺諸国へ事業展開
- ・ 島嶼地域を中心に営業活動を行う



# 国内 × 既存事業

## ◆ <既存製品の用途拡大> グラウンドアンカーの拡販

東日本大震災および台風12号および15号の災害対策への活用



新たに、急速施工できる『津波対策防波堤』の特許も出願中(意匠権取得済)



# ■ 国内 × 既存事業

## ◆ 災害対策においては…

- 台風被害：紀伊半島での地すべり発生
- 大地震：揺れによる橋梁やその他建造物の崩壊
- 津波：港湾や漁港の崩壊による被害拡大、被災後も復興に大きな障害

優れた耐震性

災害復興需要

### 【 S.E.E.E.グラウンドアンカーの特長 】

ナット定着  
圧着型

- ・何度でも緊張力の調整が可能で維持管理における優位性
- ・地震時の衝撃荷重や繰返し荷重にも有効に機能

(財)砂防・地すべり技術センターおよび(財)沿岸技術研究センターより技術審査証明や評価証を取得

第三者専門機関からの高い評価

# 国内 × 新規事業 ①

## ◆ PPP(コンセッション方式)による事業提案

### ● 国土交通省による

#### 「新たなPPP/PFI事業」提案

当社グループからは、コンセッションのリスク分担に関する調査研究案件を共同提案し、採択された。(来年3月までの報告)

「鹿児島県 錦江湾横断道路他」

「滋賀県 湖南市 下水道」

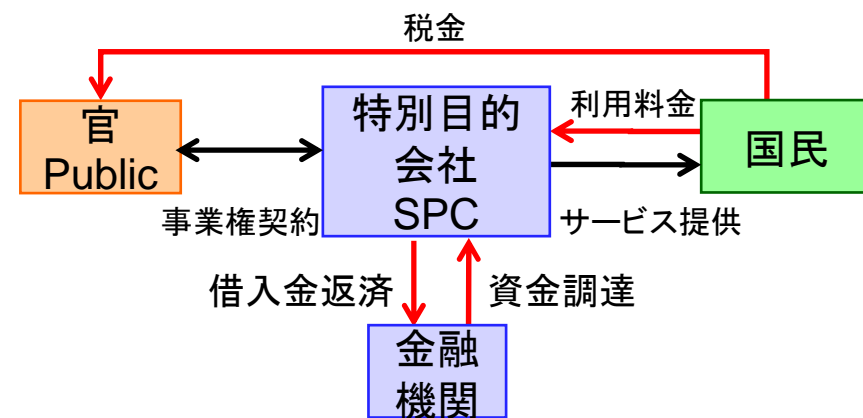
「千葉県 習志野市 下水道」



### ● 「コンセッション事業部」新設

11月1日より、コンセッション(PPP)による事業創出、プロジェクト提案を専門に扱う部署を新設。人的ネットワークやトータルエンジニアリング力で、国内でのPPP事業獲得を目指します。

#### 有料道路のコンセッション事業



# ■ 国内 × 新規事業 ②

## ◆ 既設橋の補修・補強 (リペア・テクノ事業)

### ● 元請受注体制の構築

#### M&Aの検討

- ・ 人材、実績、顧客、ノウハウなどの獲得
- ・ 費用対効果の検証



### ● 地方自治体が保有する

#### 「小規模だが数が多い老朽化した橋梁の管理」をサポート



- ・ トータルエンジニアリング力を生かして、製品（外ケーブル等）納入～工事施工まで、ソリューションをトータルで提供
- ・ PPPによる老朽化した橋梁の補修・補強プロジェクトのビジネスモデルも検討中

## ◆ 老朽化する既設橋梁の現状

### ● 地方自治体による老朽化橋梁の管理状況

- ・ 2011年9月 現在：老朽化のため通行止めの橋梁数 約1,600橋



三年後には3,000橋を超えることが想定される

さらに、

### 東日本大震災での既設橋被害

- ・ 地震および津波による既設橋梁の被害は、およそ 600橋。
- ・ 損壊した橋梁の補修だけでなく被害のなかった橋梁に関しても耐震補強の必要性が指摘されている。



津波で崩壊した歌津大橋(宮城県南三陸町)



# 海外 × 既存事業

## ◆ ベトナムにおけるトータルエンジニアリング

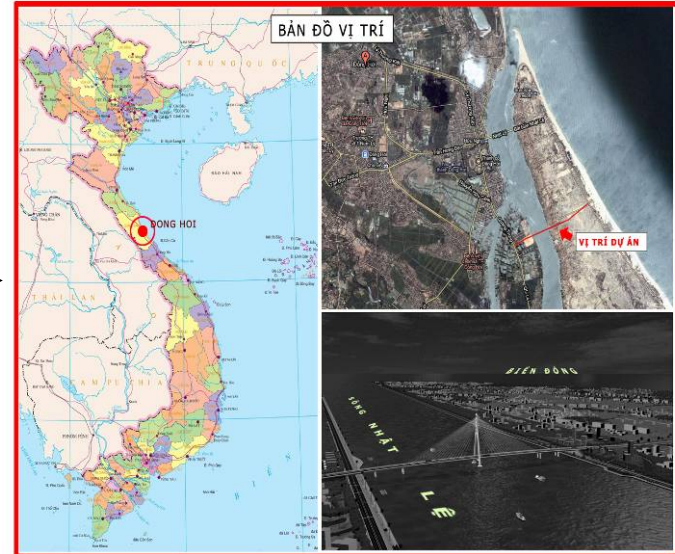
VJEC

『ハノイーハイフォン間高速道路 施工管理業務』

『Nhat Le2橋 デザインチェック業務』

『Bai Chay橋 法面対策調査設計業務』受注  
— IDI(国際建設技術協会)との連携

『高速道路関係のPPPプロジェクトの立上げ』



エスイー

グラウンドアンカー、  
PCケーブルの生産拠点現地化  
独自で現地上場会社との  
合併会社設立予定

製品の提供  
(グラウンドアンカー  
など)  
VJECと技術面での  
支援協力

K-SEC  
施工協力

エスイーバイオマス  
×  
アンジェロセック  
海水淡水化装置の  
ソフト・ハードエンジニアリング  
(製造・販売)

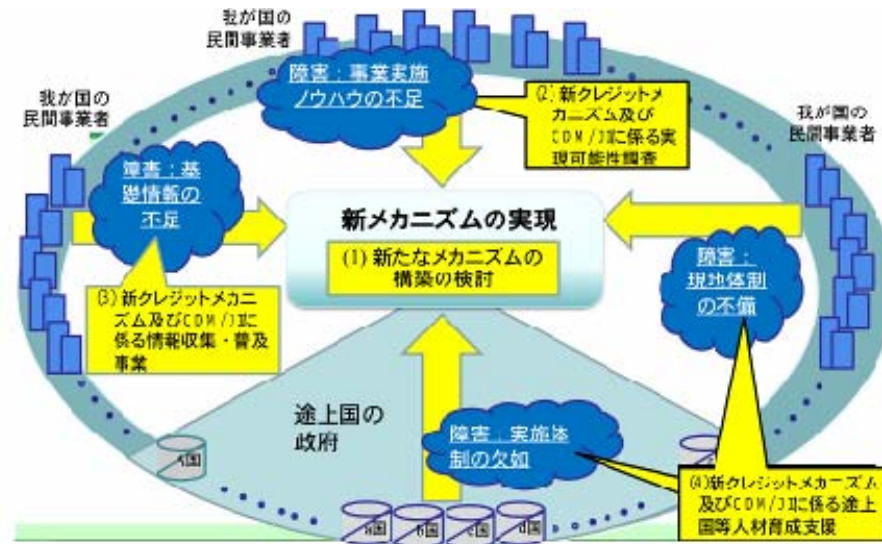
## ◆水処理関連事業の推進

- － エスイーバイオマステクノ：海水淡水化装置などの研究開発
- － アンジェロセック：専門部署として水環境技術部を設置して、給水、水処理、港湾、河川の分野において、概念設計から施工監理まで幅広いサービスを提供

## ◆エネルギー環境開発分野への事業拡大

今年6月にアンジェロセックが環境省発注の「平成23年度新メカニズムの構築に向けたアフリカ地域におけるMRV\*体制構築支援事業」を受注するなど、新たな事業分野へも注力。

\*MRV：Measuring, Reporting and Verification（測定・報告・検証）の略。



出展：環境省地球環境局市場メカニズム室

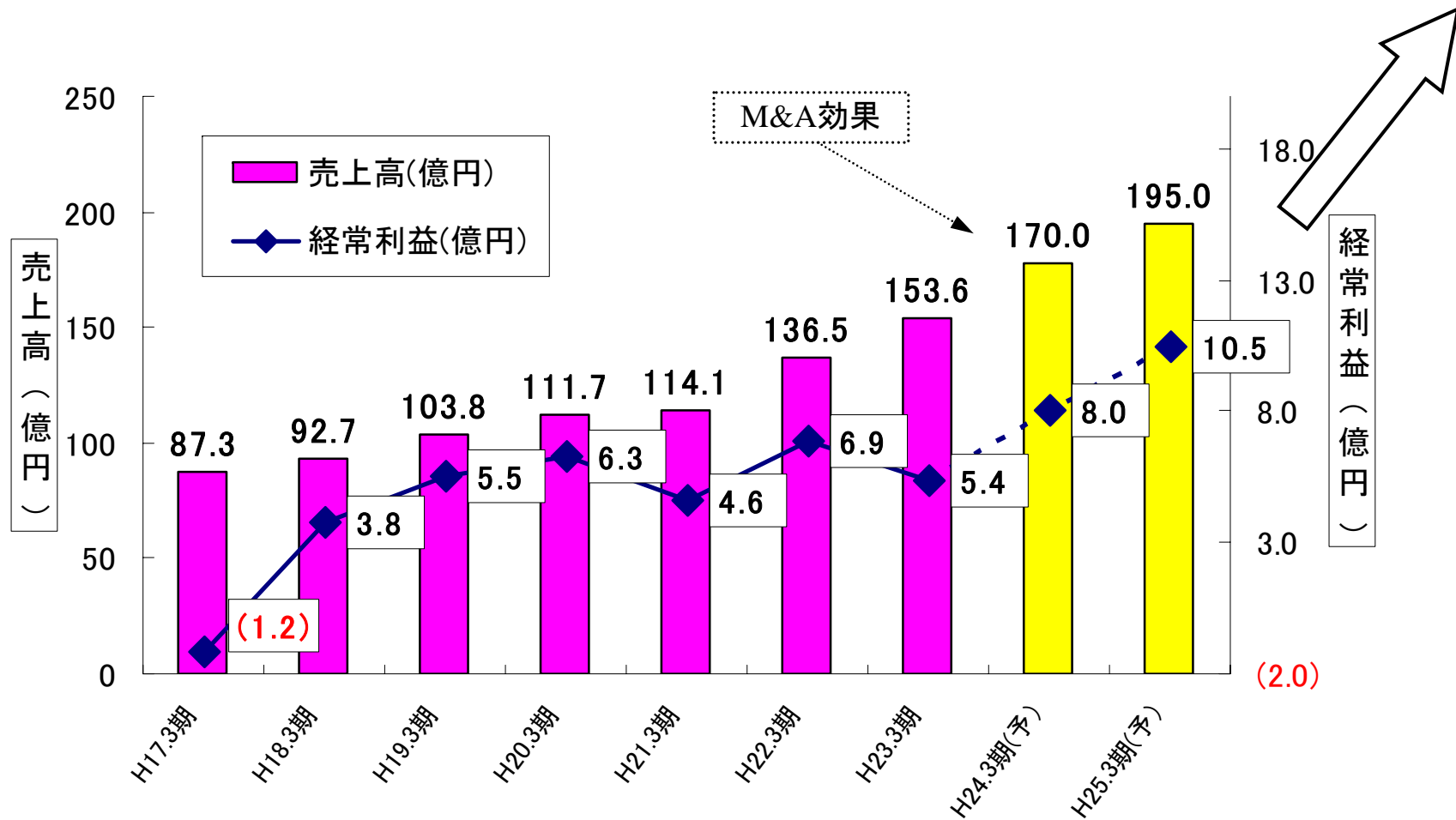
# ■ ビジネスフロー構想

## エンジニアリング建設メーカーへ



# SECグループ売上／利益計画

SEC 株式会社 エスイー





ご清聴ありがとうございました



 株式会社 **エスイー**

---


## 将来見通しに関する記述についての詳細〔ご参考〕

当資料は、あくまで株式会社エスイーをより深く理解していただくためのものであり、当資料に記載されたいかなる情報も、当社株式の購入や売却を勧誘するものではなく、またこれらに関する投資アドバイス目的で作成されたものでもありません。

本資料に記載されている当社の業績見通し、計画、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであります。これらは現時点で入手可能な情報に基づき株式会社エスイーの経営者が判断したものであり、リスクや不確実性を含んでいます。したがって、これらの業績見通しのみを依拠して投資判断を下すことは控えるようお願いいたします。

---

Globality Engineering Maker

 株式会社 エスイー